



学 園 通

練馬区立大泉学園中学校

平成 29 年 9 月 27 日発行 校長 晴佐久和彦

「書いて学ぶ」ということ

秋分を過ぎ、まさに「釣瓶落としの秋の日」といったこの頃です。校庭の部活動も夕暮れの中での活動が多くなってきました。ところで、「〇〇の秋」とよく言われますが、この時期、改めて何かじっくりと取り組んでみようと感じている方も多くいらっしゃるのではないのでしょうか。秋は学ぶにしても、心を豊かにする時間をもつにしても、とても良い季節です。

「学ぶ」ということでは、先週、中間考査がありました。一心不乱に問題に取り組む生徒の様子を見ていて、ふと自身の中学校時代を思い返しました。当時、試験勉強の方法として、自分は書かなければ覚えられなかったのも、レポート用紙に要点を書き写し、下敷き等で隠しながら暗記できるまで繰り返し言ったり、書いたりしていました。それから数十年経って、今も仕事の時は資料や手帳に必要な内容を書き込むようにしています。世の中はPC、スマホが中心となり、スケジュール管理やメモをスマホ1台でこなしている人もいて大変効率的ですが、それとは別に、こうした現代だからこそ、改めて「書くこと」の効用を見直してみるのも大切ではないのでしょうか。

言語の面から考えると、日本語（漢字）は「表意文字」なので、特に、手で書くことの意味は大きいような気がします。実際に「てへん」「にんべん」「ごんべん」などを書くことは、その漢字の意味さらには文章全体の流れをより深く考えることにつながります。もちろん、勉強の仕方而言えば、聞いたり読んだりしながら学んでいく場面も多くありますが、一度読んで分かったつもりになっても、実はしっかりと定着していなかったということが時に起こります。そうした課題を補い、内容を覚える、定着させるといった点で、書くことは役立つはず。様々な知識を確実に身につけていく義務教育段階では、特に大切な学びの形であると考えます。

二学期の始業式では、この3月末に告示された新しい学習指導要領の中身とからめて、学ぶ意味についてお話ししました。何のために学ぶのかという「学びの目的」を考え、そして、学んだことを人生や世の中に生かそうとする態度をもつ生徒の育成という大きな理念が新しい学習指導要領には示されています。そして、その根底となるものは、基礎的な学習内容を理解し（知識）、できるようになる（技能）という、これからの世の中で生きて働く「確かな学力」です。その学力定着の大きな支えとなるものの一つが、時間はかかりますが「書いて学ぶ」ことではないかと考えています。勉強法には人それぞれのものであり、一つの方法が誰にとってもあてはまるとは言えませんし、書く量を増やせばそれでいいという訳ではありませんが、最近のデジタル化の波の中で「書く」量が随分減っている中、一つの課題として「書く」ということについて述べました。

本通信の冒頭には「心の豊かさ」という言葉も記しました。来る10月は、3年生修学旅行、そして全校での合唱コンクールと行事が続きます。一つ一つの体験を通して、子ども達には感受性も大きく伸ばして欲しいと願っているところです。

海外派遣を経験して… 派遣生の感想

私は、この海外派遣で改めて人の心の温かさを感じました。オーストラリアの人たちは、とても温かく私たちを迎え入れてくれました。

現地の学校の生徒達は、積極的に派遣生たちとコミュニケーションを取ってくれました。また、分からない言葉等は、わざわざ言い換えてくれました。そして、学校内ですれ違う度に、「Hi！」と言ってくれたり、中には、「コンニチハ」と日本語で言ってくれる生徒もいました。

私のホストファミリーの方々は、毎晩車でいろいろな所に連れて行ってくれました。また、最後の別れの時には、「あなたは私たちの家族だ。だから、またオーストラリアに来たら、いつでもここにおいで。私たちはいつでも歓迎するよ。」と言ってくれました。

だから私は、今度は私が迎え入れる側になり、私が今回してもらったことを他の人たちにもしてあげられるようになりたいと思いました。

畑 天斗

最近メディアでは、日本人の性格や所作を称えるものが多く出回っています。その影響で、私も他人への気遣いは日本ならではのものと勝手に決めつけていました。しかし、7日間の研修を終えて、考えは変わりました。

私がオーストラリアで出会った人たちはみな限られた時間の中で、“オーストラリアでしか経験できない”遊び、景色、食事等をおもてなしの心で最大限に与えてくれました。この時私は、日本人が卓出しているのではなく、世界のどこでも人の温かさは共通なのだと気付くことができました。もし大人になるまで気付いていなかったら、軽くカルチャーショックを受けていたかもしれません。

やってみたら実際違っていた、なんてことは世の中に数多くあると思います。今回のオーストラリア研修は、やってみることの大切さが学べたとても良い経験だと思いました。

徳武 侑記

10月16日（月）に、海外派遣報告会が予定されています。事前学習や現地での生活、海外派遣を通して学んだことなど、映像を織り交ぜながら報告してくれることと思います。1、2年生は来年度、海外派遣に参加するチャンスがあります。来年度の海外派遣候補生の募集については、3月にお知らせする予定です。

職場（福祉）体験学習を終えて



2学年 主任 山中 修

今週の体験学習を終えて、生徒たちが体験での出来事を報告してくれました。「楽しかった」という感想を述べる生徒が多い中、「緊張した」、「大変だった」という生徒もいました。

高齢者施設や障害者施設の利用者の方たちは、中学生との交流をとても楽しみにされていることもあり、事業所の方からも積極的に利用

者の方とコミュニケーションをとってほしいとの要望がありました。

生徒にとっては利用者の方とのコミュニケーションが楽しかった、難しかったと感じ方はいろいろあったと思いますが、一生懸命に取り組もうとする気持ちは、絶対に伝わったことと思います。

この体験で学んだことをこれからの生活に生かし、貴重な経験の機会をくださった事業所の方々への感謝の気持ちを忘れずにしてほしいと思います。

～事業所の方からのアンケートより～

○元気で明るく素直な生徒たちで、とてもよかったです。

○挨拶・マナー等しっかりされており、体験学習への意欲がとてもよく感じられました。

○自ら行動や発言をすることができており、とても熱心に取り組んでいました。適度の緊張感ももたれていてよかったですと思います。

○徐々に慣れていき、成長を感じました。良い経験・体験のできるプログラムだと思います。私たち施設にとってもメリットばかりです。ぜひ今後ともよろしく願いいたします。

○思いがけなく生徒さんの中に将棋のできる生徒さんがおり、相手を探していた入居者の方が楽しい時間を過ごすことができました。また、絵の得意な生徒さんが入居者さんの似顔絵を描いてくれて、本人と職員も喜んでおりました。

▲緊張もあるとは思いますが、挨拶が聞こえない生徒がいました。

▲休憩中の騒ぎ声と、説明中の私語が多いことが気になりました。

▲今回、男子の生徒に関しては意欲が欠けていたと言わざるを得ません。女子は頑張っていました。→各事業所がお忙しい中、体験学習の機会を提供して下さっていることへの理解が不十分であったため、ご迷惑をおかけしてしまいました。学校としても反省し、今後の取り組みに活かしていきます。なお、生徒たちは新聞にまとめる作業を通じて、事業所での自分たちの行動について振り返りの学習を行っています。



臨海学校を経て

1 学年 主任 今成 美保

1 学期が終わってすぐ、夏休み気分にもならないうちに臨海学校に出かけた 1 学年。練習を重ねるごとに泳力がついたものの、海が初めてという生徒もいて多少の不安もあった初日。夏なのに海の水は思いの外冷たくて、気持ちがへこんでしまった生徒もいました。

それでも遠泳前日の指導で体育館に集まった生徒たちには緊張感が漂い、遠泳を成功させようという意気込みが強く感じられました。そして当日の大遠泳では、力強く声を出しながら全員で泳ぎきることが



できました。最初に入水した生徒と最後に入水した生徒の差は10分以上あり、長～い遠泳の列となりましたが、練習の成果を出して泳ぎ切ってくれました。この行事を通して、仲間との絆や健康な心身が養われた事と思います。

たくさんのスタッフに支えられてできた行事だという感謝の念も忘れず、2学期の学校生活に生かしてほしいと感じています。



※「完泳 おめでとう！」の横断幕は、今年度、PTAからの寄贈により新しくなりました！

地域と考える防災

生活指導主任 武田 雅之

9月9日(土)、『地域と考える防災』として防災訓練を行いました。本校では、「(1) 災害発生時の防災知識および防災技術を身につける。(2) 地域の人たちと協働して防災に取り組むことにより、生徒に地域の一員である自覚や、『助けられる人から助ける人へ』の意識をもたせる。」ことを目的として毎年実施しています。

今回参加して下さった地域の方は、石神井消防署大泉学園出張所、消防団第8分団、練馬区区民防災課、大泉学園中学校避難拠点運営連絡会の町内自治会(大泉学園中央会・東町会・東自治会)、区要員、PTAおよびボランティアの皆様です。

生徒たちは、学年ごとに分かれ、地域の方の指導を受け、色々な訓練・体験を行いました。1年生はバケツリレーとポリタンクによる水運び、煙体験、ビデオ学習。2年生は三角巾による包帯法訓練と搬送訓練。3年生はD級ポンプの取り扱いと放水訓練、消火器の取り扱い、消防車の機能紹介。そして生徒会本部役員と生活委員は、炊き出し訓練と仮設トイレの設置を行いました。それぞれの体験を通じて、実際に災害が発生した時に慌てることなく、地域の方と協力して対応できるよう積極的に取り組みました。参加して下さった地域の皆様、ありがとうございました。

